教育実習に向けて

教育実習の意義

明豊中学・高等学校
校長　岩武 茂代

1　はじめに

私は、子どもの頃から学校の先生になりたいと思ったことは一度もありませんでした。なのに、なぜ教師という職業についたかというと、ひとつには第一希望の企業の入社試験に落ちたから。そして、もう一つは、とりあえず高校の教員免許だけは取っておこうと思って行った「教育実習」が楽しかったからです。つまり、教育実習で経験した生徒との交流、教えることの喜びは、その後の人生を決定づける程の力があったのです。

2　教育実習の意義について

（1）　観察する。知る。理解する。

学生の皆さんは、教職に関する講義を通し多くのことを身に付けていると思います。教育実習では、学校の様子をじっくりと観察し、それまでに身に付けた知識や考え方を活きたものとし、自身の力とすることが必要です。

観察のポイントとしては、児童・生徒の状況、教師の指導の様子、学校組織の状況、学校の特色、学校の課題、学校と地域との連携などがあります。よく観察をし、疑問点を確かめ、自分の頭でよく考えて理解することが重要です。

（2）　実践する。

教育実習では、授業、学級活動（ホームルーム活動）、学校行事、部活動など様々な実践活動を行います。どれも学校現場でしか経験できない活動であり、生徒と触れあう楽しい機会になると思います。しかし、忘れてはならないことは、どの活動も、活動を通して生徒に何を学ばせるのか、どのような力を付けるのかという教育的目標を有しているということです。このことをよく理解し、教師という立場での教育的な観点を踏まえた対応を学ぶことが大切です。

そして、教育活動の中心はやはり授業であり、教師の力の中心は授業力です。教師には、授業を通して、児童・生徒に、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を身に付けさせ、「学びに向かう力や人間性等」を涵養することが求められています。

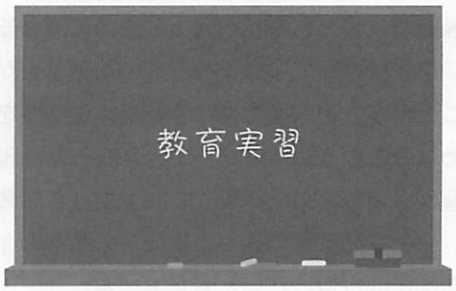
教育実習で最も力を入れ身に付けてほしいのは、授業力の基礎です。授業力の基礎として、学習指導要領を理解し育成を目指す資質・能力を明確にした授業のイメージを持つこと、授業展開に必要な基礎的なスキルを獲得することが必要です。指導教官の授業をよく観察することから始め、授業の構想、指導案の作成、授業の実践、振り返りと課題の把握など全力で取り組んでほしいと思います。

私は、授業を観察する際の観点として次の４つを重視しています。参考にしていただければ幸いです。

①授業の目標（生徒に付けたい力）が適切か。
②目標に沿って適切に授業を展開しているか。
③適切な発問を行っているか。
④生徒の興味・関心を高め、力をつける工夫をしているか。

（3）　考察する。

これまでの学習と教育実習での経験を総括し、自分にとっての課題は何か、教職を目指すに当たってどう取り組んだらよいか考察してください。教育実習は実践を通して、自らの適性や進路を考える重要な機会です。そのため、事前学習、事後の考察ともに十分に行い、実習を意義あるものにしてほしいと思います。



その子らしさとは

別府市教育委員会学校教育課
指導主事　長嶺　敏雄

先日（令和元年11月８日）は、ご清聴ありがとうございました。

話の中で、大人の論理や都合で授業構想・授業展開するのではなく、子どもの出方を具体的に想定した授業構想や子どもの思考に沿い、情意面の高まりを大切にした授業実践について思うところを述べさせていただきました。

教員になった頃の私は、目に見える子どもの姿をそのままに受け取り、その言動に対する言葉かけや指導を行っていたように記憶しています。しかし、今、考えると、そのような行為は、子どもを表面的にとらえ、その子どもの言動の背景にまで目を向けていなかったように思います。これまでの教師生活の中で、私自身の子どもに対する見方が変化したのは、これまで出会ったたくさんの先生方の教育観にふれ、自分なりに自身の教育観を見つめ直したからではないかと思っています。

一人ひとりの子どもは、それまでの生活経験や学習経験から、その子らしいものの見方や考え方をもっています。それが、日常生活のあらゆる場面において、その子どもの言動となって表面に現れます。逆に考えると、一人ひとりの子どもの言動の奥には、その子なりのものの見方や考え方が必ず存在するということです。

一人ひとりの子どもの生き方を豊かにするためには、その子どもの見方や考え方に揺さぶりをかけ、その子自身が見方や考え方を再構築する（広げ、深める）ことができる日々の授業が求められます。授業における子ども同士のやり取りの中で、子どもの考えの背景（「なぜ、そのように考えたのか」「どのようにして、そのような考え方に到達したのか」等）が話題となり、問題となるような授業が求められるのではないかと思います。

教育実習では、子どもの中に「考えたい」「解決したい」「話し合いたい」という願いが生まれる授業づくりをめざしてほしいと思います。子どもの心が動き、願いが生まれることは授業の出発点であり、子ども同士の本気で伝え合う姿につながります。そして、子どもの本気の奥にある「その子らしさ」を見逃さず、子ども理解やその後の授業づくりにつなげていってほしいと思います。

みなさんの今後のご活躍を祈念申し上げます。

積極的な生徒指導

別府市教育委員会学校教育課
指導主事　藤原　良浩

子どもの成長を支援する生徒指導のポイントと題しまして、「生徒指導とは」「授業づくりと生徒指導」「学級づくりと生徒指導」「チーム学校で行う生徒指導」の４つの視点で講義を行いました。

皆さんの服装が整えられ、メモを取りながら真剣に講義を聞く意欲的な姿勢が、大変印象に残っています。

皆さんへの講義内容を思案していると、私は教育実習でどんなふうに子どもたちに接していたのか、教員になった頃はどのような指導をしていたのかと思い返し、子どもたちの表面的な理解にとどまり、適切な指導ができずよく悩んでいたことを、思い出しました。

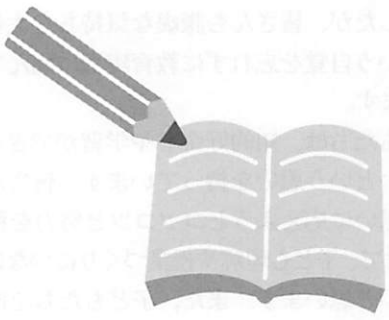
私の子どもへの接し方が変化したのは、今までに出会った先生方の指導方法や教育観に触れることで、自分なりに見直しを行い、参考になるところを積極的に取り入れていったからです。講義の中でもお伝えしましたが、皆さんも謙虚な気持ちを大切にし、教師という自覚を忘れずに教育実習に臨んでほしいと思います。

子どもたちは、知的好奇心や学習ができるようになりたいという思いを持っています。皆さんは、そうした思いに応えようとコツコツと努力を積み重ねてくことで、子ども理解や授業づくりにつなげていってほしいと思います。また、子どもたちを授業だけ

でなく、学校生活全体で成長させるといった視点を持ってください。生徒指導とは「児童生徒の自発的かつ主体的な成長・発達の過程を支援していく働きかけのこと」と示しました。どのような子どもたちを育てるのか、どのような働きかけであれば望ましい大人へと成長していくのかなどを考えながら、登校時のあいさつや授業、特別活動の時間など、登校から下校までの1日中「積極的な生徒指導」を心掛けてほしいと思います。「積極的な生徒指導」を進めるには、子どもたちとの適切な関係が必要です。そうした関係づくりのために、最後まで聴く、否定しない、相手の関心に関心を持つ、同じ立場で考えるなど、子どもたちに関わり話をよく聴いてあげてほしいと思います。

子どもの問題行動の背景には、家庭や人間関係、本人にまつわる要因など、様々な原因が考えられます。トラブルや困りが発生した場合は、一人で抱え込まずに、同僚の先生やスクールカウンセラーなど、様々な人たちと協力して組織的に解決していくことが大切です。ケースによっては、外部の相談機関や医療機関と連携することもあるでしょう。様々な視点から解決へと導いていく組織的な対応は、今、学校に求められています。「チーム学校」の一員として、子どもだけでなく先生方とのコミュニケーションも大切にしてほしいと思います。

教育実習では、皆さんそれぞれが描いている理想とする教師像に向かって一生懸命努力してください。そうすることで、皆さんのこれからの教師人生を支える土台が作られるものと思います。皆さんの今後のご活躍を期待しています。



教育実習の実際

明豊中学・高等学校
副校長　丸馬　寿

令和元11月29日（金）の講義で、教職希望の皆さんに「教育」と「学び」、さらに教育現場での実際についてお話をしました。

「教育は環境である」とか「教育ほど確実な投資はない」、あるいは意外と知らない「挨拶の力」や「AIに勝つのは教育である」などの迷言を弄（ろう）してしまいました。その後、受講者の皆さんからの身に余る感想を読みながら、本当に恐縮してこの原稿を書いています。

しかし、現在、教育の現場にまだいる身として、高い「志（こころざし）」や強い「熱（エネルギー）量」を持って、私たちと同じフィールドに果敢に挑戦そして加担してほしい、と強く願っています。教育実習で人生が変わった（ターニングポイントだった）小生からの偽らざる思いです。

そして、さらに誤解を恐れずに言うと、経験上「教育は絶対値でもある」のです。上へ行っても（成功・上手くやれても）、下へ行っても（失敗・しくじっても）、結果的にその（教育活動）状況は、絶対値・プラスに働くのです。当然長い目で見てですが。

「失敗してもいいがな…、人間だもの」と相田みつを風に言うつもりはありませんが、最後に「初めて教壇に立ったときの5ヶ条」を、教育実習生へのエールとしてお贈りします。

①「教材研究」をして、し過ぎると言うことはない。「教材研究」が全て。ただし、（授業は）無理に予定通り進めようとは思うな。必ず失敗する。

②最初の授業ではいきなり授業を始めよ。自己紹介したりさせたりするのは、高等テクニックが必要だ。この時点で学力（知識）だけが生徒より勝っている。

③生徒の人気を得ようと冗談を言っても生徒はわ

からない。やけど（失敗）のもと。時流に乗った「ジョーク」とて十年一昔、いや三年一昔である。

④毅然とした態度と明るい表情の組合せ（バランス）が大切。特に教室のドアを開けたときは明るく、しかし笑ってはダメ。生徒は意外？にも（超）敏感である。

⑤黒板（最近はホワイトボード？）に向かってしゃべるのは最低。一人の生徒に話しかけるような気持ちで説明すると良い。生徒を十把一絡げで見ない。

皆様の今後のご活躍を心から祈っています。

人と関わる中で

大分県教育センター教育相談部
指導主事　大久保　祐子

今回（令和２年１月10日）、教育実習を目前に控えた学生の皆さんに、「社会情勢と教育課題」「学級集団づくり」「求められる教師像」の３本柱でお話をし、人間関係づくりの大切さをお伝えしました。

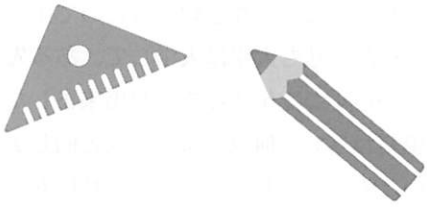
私が教育実習で初めて行った授業は、今思うと散々なものでした。子どもたちに翻弄されながら汗だくで、無我夢中での日々。何度も指導案を書き直し、毎日のように授業をしたように思います。その時の担当の先生が「子どもの『もっと話したい。もっとやってみたい』の『もっと』を引き出すことが大事。子どもとの関わりの中で、子どもの願いを聴いてあげられる先生になってほしい」と話してくれたことを思い出します。

子どもの真っ直ぐな瞳と笑顔、そしてその先生との出会いがあり、一生忘れられない教育実習となりました。「教師になろう」と決めた瞬間でもありました。

人口減少と少子高齢化、情報化、AIの発達、子どもの貧困等、そのような変化の激しい社会の中で、子ども一人一人が主体的によりよい生き方を模索し、そして社会の持続可能な担い手として、自分や社会の成長のために新たな価値を生み出していくことが今の子どもに求められています。その生み出す力を子どもにつけさせるためには、人との関わり、人間関係づくりが土台となると考えます。

講義の中で、学生の皆さんに、人間関係づくりのための構成的グループエンカウンターを一緒にしてもらいました。相手の話をうなずきながら聴き、楽しもうとする皆さんに教師としての素質を感じました。

感想の中に「相手の意外な面を知ることができてよかった」「うなずきながら聴いてくれ認められた感じがした。嬉しかった」など、相手に関心を持って、相手を知ることで、人との繋がりができてきます。自然に「お願いします」「ありがとうございました」との言葉も出て、実はソーシャルスキルトレーニングも含まれています。その活動の中に「人づきあいのコツ」が隠されています。人との関わり方の練習を楽しみながらすることで、いい人間関係がつくれ、よりよい学級づくりの土台ができます。

こういう機会を子どもたちは待っています。人に褒められ、認められる中で自信がつき、自己肯定感が上がります。人は人の中で育ちます。

教育実習は、実際に子どもたちと出会い、皆さんがこれまで学んできたことを生かせる絶好の機会です。10のうち１つ、上手くいったらよしと思うようにして、上手くいかない方が断然多いかもしれません。でもめげずに、まずはやってみることです。子どもたちの健やかな成長のために、根気よく関わり続けることです。皆さんの中に、目指す先生の姿を心に持って、教育実習に臨んでいただけたらと思います。